Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構　ブラウンバッグセミナー

Brown Bag Seminar No.215

2025
12.10(水)
12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 ◆発表者紹介
12:15-12:40 ◆プレゼン
12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom)
登録はこちら

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_M8H7b8DIRlaJgGdaQH50Qw

【技術支援】九州大学 Q-AOS

微生物叢から拓くスマート畜産の可能性 - 総合知としてのワンヘルス

Key Words: 細菌叢　スマート畜産　環境　ワンヘルス　畜産物生産

森田 康広 准教授
農学研究院 資源生物科学部門

2010 年に山口大学農学部獣医学科を卒業後、岡山県で産業動物臨床獣医師として現場に従事しました。その後、名古屋大学大学院生命農学研究科、帯広畜産大学獣医学研究部門・動物医療センター産業動物診療科を経て、2024 年 4 月より九州大学大学院農学研究院に所属しています。
これまで、獣医学と畜産学の両面から、暑熱環境下におけるウシの生理応答や生産性の向上をテーマに、日本および東南アジア地域で研究を行ってきました。近年は、生体センサーによる生体信号解析を活用したスマート畜産の基礎研究に加え、ルーメン・腸内・生殖器などのマイクロバイオームを「体内の生態系」として捉え、その変化が動物の健康、行動、環境応答にどのように関与するかを探究しています。
動物の福祉、生産性、環境の持続性を科学的に統合的に理解する「ワンヘルス」の実践を目指し、生命と環境が共鳴する新しい畜産のあり方を追究しています。

本講演では、家畜の腸内およびルーメン微生物叢を「体内の生態系」として捉え、動物福祉・生産性・環境負荷を統合的に考える新しい畜産の方向性を展望する。微生物叢は、動物の健康や行動、環境応答を媒介する「生命の共鳴場」であり、その理解は人間·動物·自然·社会の健康を総合的に捉える「ワンヘルス（One Health）」の基盤に位置づけられる。生体センサーや環境データを統合するスマート畜産は、単なる効率化技術ではなく、生命と環境の関係を可視化し、その動的平衡を共鳴的に支える知の実践である。微生物叢の変化を導く環境・生理・行動パラメーターを明らかにし、それらを制御可能なシステムとして統合するデータ駆動型のアプローチを通じて、動物福祉・生産性・環境持続性を同時に高める「総合知としてのワンヘルス」の実現を目指す。